

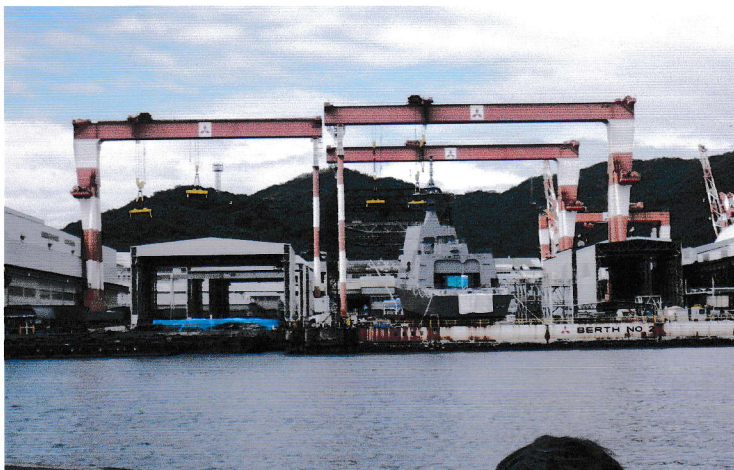


同じ大村市で行われる3つの競技の合同開会式で、5人くらいのつまらないあいさつを聞かされたが、そのなかで39歳の大村市長だけは元ラグビー選手ということで、はきはきとした口調でさわやかにあいさつをし、大拍手をもらっていた。吉田拓郎がかつて「古い船をいま動かせるのは古い水夫ではないだろう」と歌ったのを思い出した。スポーツと違って古い政治家は引退すべきだと思う。

3日目の初戦は気合の入った地元長崎Aとの対戦で、前半圧倒されて3トライされてしまった。後半ようやく2トライして追いついたが、結局10-22で敗れてしまった。しかし、スクラムからNo.8の花房さんが持ち出してセンターの私が直接もらって突進する「ハナマル」のサインが決まってチャンスを作り、そのラックから2次攻撃をして快速塩崎が走り切ってトライするというパターンができてきた。慣れないマウスピースとヘッドキャップをしてのプレイは辛かったし、5年前にアキレス腱を切った人工芝だったが、なんとかがんばれた。

試合が10時5分に終わると、さあ観光だ。15時45分のバスまで待っていられるわけがない。

タクシー5台で近くの長崎空港まで行き、長崎市内行きの高速バスで長崎港へ移動した。12時発の長崎港観光船を19名全員予約してあるのだ。試合中は雨もばらついてしたが、出港する頃には晴れて、明治産業遺産として昨年世界遺産に登録された中の一つである造船用のドックや巨大なクレーンを眺めながら、帆船のようなつくりの船のデッキでさわやかな風を浴びることができた。年配のカナダ人夫婦が乗っていて、3週間も日本を巡るのだそうだ。そんな旅行を妻と早くしてみたいものだ。次回のゴールデンオールディーズこそ。



財布をタクシー内に置き忘れたため乗船しないで警察に届けに行っていたYさんのチケットの払い戻しに行ったとき、払い戻しの理由を告げたら「それなら届いています」とのこと。その後Yさんも乗ったはずの船を見ながらオープンデッキで飲んだが、Yさんにおごってもらった生ビールは実においしかった。脇を通っていくたくさんの人たちもうらやましそうに見ていた。



それから長崎名物のチャンポンを食べに元祖の四海楼へ酔い覚ましに歩いて行った。超有名店なので30分待ちと表示されていたが、昼の営業終わりだったので10分くらいで済んだ。私は4年前にもう一つの有名店である江山楼で1400円の上チャンポンを食べているので具が少なく感じたが、とんこつ味だがスープがすっきりしていて食べやすかった。それよりも温かくした紹興酒が口当たりがよいので、8人で2本飲んでしまった結果、Oさんは酩酊して四海楼のことを何度も満珍楼と言ってきかなかった。ここは横浜中華街か。